

ムジナモ発見の地に記念碑が完成

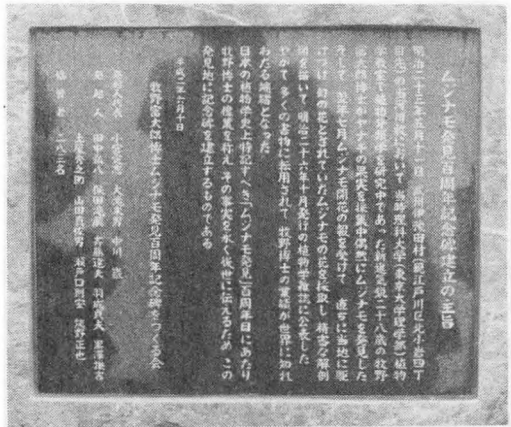
大滝末男

本年は故牧野富太郎博士(1862~1957)が28歳の時、東京の江戸川河畔でムジナモを、日本で最初に発見(1890年5月11日)してから100年目に当たる。この機会にその発見地に記念碑を建立すべく計画の仕掛け人(提唱者)で、発起人の代表の一人でもある大滝は、読売新聞の姉妹紙である「東都よみうり」(1987年1月23日発行)に、「江東の水生植物に寄せて：幻の食虫植物ムジナモと一つの提案：」と題し発表した。その後の昨年6月になって、本年が創立40周年を迎えた食虫植物研究会の小宮定志会長及び地元の中里喜一江戸川区長を含む中川巖(祖父の故磯右衛門は生前牧野富太郎と親交が深かった)その他の強力な賛同者を多数得て、その実現が立案され実行に移された。このような機運に臨んで、大滝から提案した審議事項が、松江での第11回水草全国集会の総会(1989年7月29日)で議決されスタートしたことは、会報39号に水草研究会としても発表されているので、ご承知の会員も多いことと思う。その会報には「ムジナモ発見と牧野富太郎博士」及び「趣意書」も添付されており、この計画が実行に移されてからはぼ1年を経過したのであるが、お陰様で去る6月10日予定通り、三波石青砥からなる立派な記念碑が完成した。当日は幸い好天にも恵まれ、牧野富太郎の四女玉代さん(80歳)ほか数名のご親族もご参加頂き、盛大な除幕式が挙行されたことを、謹んでここにご報告いたします。なお、このたびのムジナモ発見記念碑建立に際し、資金の募金は、一口5,000円の協賛金として、目標額150万円でありましたが、結果的には20余万円も超過しましたので、当初の目的を無事完了することが出来ました。

改めて、ここに協賛金を(1~10口)賜った下記的水草研究会会員各位に対し、深甚の謝意を申しあげます。

井上幸三・上野雄規・大滝末男・大村敏明・久世源太郎・粉川昭平・小宮定志・桜井義雄・瀬戸口則安・外山雅寛・園田富子・西原禮之助(澄子夫人は牧野富太郎の次女故鶴代さんの長女)・浜島繁隆・松岡鈴子・和気俊郎(香川植物の会代表) <アイウエオ順>

平成2年6月12日記



水草研究会会報 No. 40 (1990年6月)

(Bulletin of Water Plant Society, Japan)

発行 水草研究会(神戸市灘区鶴甲1-2-1
神戸大学教養部生物学教室内)

編集 角野康郎

印刷 中村印刷株式会社

(神戸市灘区友田町3-2-3)